資料－３

国際かんがい排水委員会（ＩＣＩＤ）
第 53 回国際執行理事会及び第 18 回総会
の報告について

Ⅰ．全体概要

1．開催期間： 2002年7月21日（日）～7月28日（日）

各委員会・部会　21日（日）～24日（水）
総　　会　25日（木）、26日（金）、28日(日)
執 行 理 事 会　27日（土）

2．開催場所： カナダ　モントリオール

3．全体参加者　： 約1000人（70以上の国及び国際機関から参加）

4．日本からの参加者：

ＩＣＩＤ日本国内委員会委員長　中村 良太　日本大学教授
ＩＣＩＤ本部副会長　谷山 重孝　(社) 日本農業集落排水協会特別顧問
農村振興局次長　北原 悦男
農村振興局事業計画課長　林田 直樹　等
(ＩＣＩＤ日本国内委員会事務局長)　計27名

Ⅱ．総会報告

１．全体テーマ

「不足する水、増加する人口と環境負荷のもとでの食糧生産」

２．各課題

（１）課題 50　：　「限られた水資源と人口増加により影響を受ける食糧生産、貧困緩和及び環境上の問題」

副課題

① 2020 年までの農業用水の利用可能性の推定と傾向
② 不足する水資源を管理するための経済政策と法的手段
③ かんがい効率と管理の改良のための技術
④ かんがい排水における参加型管理
⑤ 様々な産業部門と環境における水利用の競合
⑥ 低品質水によるかんがい用水供給の補足

○日本から、Panel of Experts として佐藤政良筑波大学教授が参加するとともに、４つの論文を発表した。

（２）課題 51　：「かんがい、排水及び洪水調整の統合と管理」

副課題

① 国家と地方の政策の要素
② 土地と水資源の統合的な開発・管理
③ 水部門におけるかんがい排水と洪水管理戦略の実行
④ 意志決定への利害関係者の参加
⑤ 水資源開発のための人口統計学

○日本から、General Reporter として畑 武志神戸大学教授が参加するとともに、３つの論文を提出し、うち１つを発表した。

３．その他セッション等

（１）スペシャルセッション

○テーマ　：　かんがい排水と洪水管理の研究開発

○日本から、Panel of Experts として中野芳輔九州大学教授が参加した。

（２）スペシャルイベント

○テーマ　：　2025 年までの水、食料と農村開発のための世界ビジョン

○日本から、谷山重孝 ICID 本部副会長が、カントリーポジションペーパーを提出し、発表した。

（３）シンポジウム

○テーマ　：　かんがい排水部門における民営化

（４）セミナーテーマ

○テーマ　：　かんがい排水と洪水管理システムの失敗からの学習

４．Feature Session

（１）開催日時：　2002 年 7 月 24 日 10:30～12:30

（２）目　　的：　第３回水フォーラムの開催を２００３年３月に控え、関係者による取り組みの報告やフォーラムに向けた意見交換

（３）参 加 者:　議長　中村良太日本国内委員会委員長
３０程度の国および国際機関から７０名以上の出席者

（４）内　　容：

○ ＩＣＩＤ本部のシュルツ会長とタテ事務局長から、ＩＣＩＤの取り組みについての報告がなされた。

○ WWＦ３事務局の的場上級アドバイザーから、フォーラム全体の準備状況について説明がなされた。

○ 農林水産省北原農村振興局次長が、ＦＡＯとの共催による「水と食と農」大臣会議を水フォーラムにおいて開催することを発表し、同時に会議への参加を呼びかけた。

○ オランダのWWＦ２、カナダのWWＦ４の関係者を含めた多数の国の参加者から、WWＦ３と大臣会議に関する意見等が出され、日本側の関係者との間で、ＩＣＩＤの立場を踏まえた直接の討論がなされた。

Ⅲ．国際執行理事会（IEC）報告

主要課題	議論の要旨	結果
1．事務局長報告 （1）加盟国の状況 （2）多国語技術用語辞典	（1）　ICID のネットワークは 98 カ国、この内アクティブメンバーは 69 カ国である。 （2）　多国語技術用語辞典について、日本国内委員会から日本語版辞典が出されたことが紹介された。	
2．ＩＣＩＤ加盟申請	チャドが加盟申請を行っているが、チャドの代表が理事会に出席していない。	チャドの申請は受理されたが、加盟の検討は来年に送られた。
3．評議会（ＭＢ）報告	（1）　ICID 本部ビル増築監督委員会から、ICID 本部ビルの増築計画及び財務計画等が報告され、評議会は同意し、国際執行理事会における承認を勧告した。 （2）　日本国内委員会が 2003 年のワットセイブ賞のスポンサーになった。	報告が承認された。
4．戦略計画・組織委員会（PCSPOA）報告	（1）　アジア地域ワーキンググループ（ASRWG）の部会長に谷山重孝氏が選出された。 （2）　第 52 回国際執行理事会において ICID への加盟申請が承認されたエストニアについては、2001 年 10 月に正式加盟し、アクティブメンバーは 69 カ国になった。	報告が承認された。
5．技術活動委員会（PCTA）報告	（1）　委員のうち中村良太氏が６年の任期を終えた。日本国内委員会より荻野芳彦氏が指名され、承認された。 （2）　歴史部会より、八丁信正氏が部会長として要請され、承認された。	報告が承認された。

主要課題	議論の要旨	結果
6.ICID 規約の改正	（1） 規約10.2（a）、規約13.2（d）の改正 ○ＩＣＩＤ非加盟国及び脱会国による総会、地域会議への参加費用負担の増額措置を削除。 （2） 規約2.1、規約2.7の改正 ○Office Bearers（役員会）における会長、副会長のIECへの勧告の役割の削除。	特別委員会を設け検討し、その結果を、次回のIECで報告する。
7.今後のIEC･総会等の開催	（1） 2007年の第58回IECの開催地としてパキスタン、ナイジェリア、アメリカからの申し出があった。 （2） 2008年の第59回IECと第20回総会の開催地としてパキスタンより申し出があった。 （3） 2009年の第60回IECの開催地としてナイジェリアより申し出があった。 （4） 2006 年の第３回アジア地域会議の開催地として第57回IEC開催国であるマレーシアが同時開催を申し出た。 （5） 2007 年の第４回アジア地域会議の開催地としてイランより申し出があった。	（1）投票の結果、アメリカに決定。 （2）パキスタンに決定。 （3）ナイジェリアに決定。 （4）マレーシアに決定。 （5）イランに決定。
8． 会長及び副会長選挙	任期が終了する会長１名、副会長３名の改選が行われた。 【立候補者の国】 会 長 ： エジプト、マレーシア （２名） 副会長 ： インドネシア、ウクライナ、ロシア、中国、パキスタン、ナイジェリア、スイス、インド （８名）	会 長：ケーズルール氏（マレーシア）が当選 副会長：チャイ・リンゲ氏（中国） I.K.ムサ氏（ナイジェリア） アンドロ・ムシィ氏（スイス） が当選